

あいさつ



# 式　　辞

校長　上原　昇

本日ここに、来賓の皆様をはじめ、同窓生、PTA、地域のみなさま多数ご臨席のもと、沖縄県立前原高等学校創立70周年記念式典を挙行できることは、この上ない喜びであり、生徒職員一同、心から感謝申し上げます。

本校は昭和20年、沖縄戦で焦土と化した敗戦の混乱と荒廃の中から、郷土復興の願いと、地域住民の期待を担って開校され、米軍統治下の行政区となった当時の前原市の名前をとて、前原高等学校と命名されたのであります。以来、昭和21年に与那城村西原、昭和33年具志川村田場へ移転し現在に至っております。

その間、歴代教職員、生徒の真摯な努力はもとより、県教育委員会のご指導、具志川市、勝連町、与那城町をはじめ、PTA、同窓生ならびに地域の方々のご協力により、隆盛発展の一途をたどり、輝かしい歴史と伝統が築かれました。

顧みますと、米軍コンセット払い下げの校舎と、石ころだらけのグランドで毎日作業に明け暮れた創立当初の頃から、肝高の意氣高らかな若人たちは郷土再建の意欲に燃え、勉学やスポーツに青春の汗を流してきました。金武湾に浮かぶ4つの離島からは親元を離れ厳しい寮生活を送る生徒たちもたくさんおりました。戦後の生活が安定してくると、優れた指導者の下にスポーツ全盛の時代が花開きました。野球、ソフトボール、バレーボール、剣道、卓球、陸上、サッカーなど、いずれも県内トップの栄冠に輝き、他校生徒の垂涎の的となりました。文化面でも合唱部や吹奏楽部、弁論部、演劇部、放送部などが、多くの県大会で金賞、優秀賞を獲得する活躍でした。また、進学面では、県内屈指の進学校として、国費、自費制度による県外国立大学進学者を多数輩出し、琉球大学へは常に数十名が合格する文武両道兼ね備えた学校がありました。

今日までの卒業生は2万3千人を超え、政治、経済、教育、文化、芸能、あらゆる分野において地域社会のリーダーとなり、振興発展の礎として活躍しております。このように、本校が、誇り高き肝高精神を堅持し、教学一如の精神で、沖縄の復興と発展に寄与してきたことは戦後70年、創立70周年の節目にあらためて確認したいと思います。



さて、近年の教育の動向に触れると、1979年に与勝高校、1983年に具志川高校が創立され、前原高校は3分割される形になりました。その影響はスポーツ面や進学面にも顕著に表れ、かつてのように華々しい活躍は減少しました。平成元年3月に改定された学習指導要領で、学校の教育活動はこれまでの画一的な教育から生徒の個性を活かす特色ある教育への転換が求められました。これを受け、平成6年、本校は、理数、英語、人文、体育の4つのコースを導入することに踏み切りました。生徒の興味関心や将来の進路に応じてコースを選択できるコース制がスタートしたのです。一方、平成17年には、高校入試の学区拡大が実施されました。それまで指定された地域の高校にしか受験できなかったのが、中部全域の高校へ受験可能となったのです。「高校が生徒を選抜する」時代から、「生徒が高校を選択する」時代へと変わったことを意味しました。本校もその大きな波にもまれ、入学定員を割り込む苦しい時期を経験しました。そして今から10年前の平成17年、本校60周年に合わせて制服を一新し、コース制の改定を断行したのです。新生前原高校は、この10年、母校出身の校長を先頭に学校改善に取り組み、著しい成果を挙げてまいりました。とりわけ昨年から今年にかけてはその間の努力が実を結び、サッカーが35年ぶりの優勝、陸上で43年ぶりの1位、空手部の県大会4連覇、女子バスケット部が初優勝、卓球、剣道の上位入賞など多くの部活動がかつての常勝前原を彷彿とさせる活躍をしました。学校生活では、どこをとっても生徒からのあいさつが聞こえ、遅刻、欠課、欠席が減少し、全校生徒945名中、一学期の皆出席者600名という状況です。

全校生徒の皆さん、皆さんはこのような学校に誇りもつと同時に、この学校の歴史を築いてきた先輩方の努力と母校愛を忘れてはなりません。中国の故事成句に「飲水思源」という言葉がありますが、「飲水思源」とは、「水を飲むときは井戸を掘った先人の苦労を思え」という意味です。あの時代になると人は当たり前に水を飲み、何のありがたみも感じなくなるが、先人に対する感謝の気持ちを忘れてはいけない、という意味と、先人の苦労を自分たちも引き受ける気概をもて、という意味があります。みなさんは本当に感謝の気持ちをもって、勉強や部活動に励み、学校生活を一層充実したものにしてほしい。そして新しい井戸を掘る不屈の精神（肝高精神）で前原高校を一層発展させてほしい。それが、70年の歴史と伝統を引き継ぐということなのです。「教学一如」の言葉通り、私たち教職員もまた、共に、本校の一層の発展を期して全力を尽くします。

さて、結びになりましたが、来賓のみなさま、同窓生の皆様、PTAのみなさま、地域の皆様には、本校創立70周年を迎えるにあたり、暖かいご支援とご芳志を賜り、衷心から厚くお礼を申し上げます。そして、今後とも、変わらぬご指導、ご鞭撻、ご協力を願いし、式辞といたします。



## 母校に対する愛情の深さ

記念事業推進委員会会長 (PTA 会長) 比嘉 勝

本日、ここに前原高等学校創立 70 周年記念式典を挙行するにあたり、諸見里明県教育長、島袋俊夫うるま市長、栄門忠光うるま市教育長をはじめ、多くの御来賓、同窓生、PTA 会員、地域の方々多数のご臨席を賜り、かくも盛大に記念式典を挙行できることは、この上もない慶びであり深く感謝し心からお祝い申し上げます。

顧みますと、本校は昭和 20 年 11 月 12 日に開校式を挙行。前原高等学校と命名。生徒は旧制中学校及び高等女学校生存者、校舎や施設設備、教育備品等も不足し、極めて困難な中での発足だったと伺っております。

これまで幾多の困難を克服し、今日の輝かしい文武両道の校風と伝統を築き上げ、本校発展に尽くした先輩方の足跡は誠に偉大であります

この 70 年という長い年月の間に、本校で学び、卒立った同窓生は 23,000 人余を数え、数多くの人材を輩出し、県内外で経済、教育、文化、スポーツ界等の各分野において、社会発展の原動力として活躍されていることは、本校の大きな誇りであります。

これから新しい時代を担う有為な人材を育成するために、創立 70 周年推進委員会を結成して諸記念事業を積極的に推進してまいりました。

記念誌の発行、学校車の購入、楽器の購入等、教育環境の充実と整備のための諸事業は、当初の目標通り予算化し実施することができました。これも多くの同窓生、PTA、職員、各企業、地域の方々、各関係機関の物心両面からなる多大なご支援・ご協力によるものと厚くお礼申し上げます。

特に各期同窓会等が多く開催され、同窓の先輩方の母校に対する愛情の深さを痛感させられました。本当にありがとうございました。

家庭・学校・地域社会の相互連携が、長い学校の歴史と共に地域に根差し信頼され、愛される学校へと発展した証だと思います。

その間、推進委員会の発足に向けて準備委員を立ち上げて頂いた大城順子同窓会長、具志堅侃前校長、そして現校長の上原昇校長、事務局を担当して頂いている玉城学教頭、高山先生、同窓会理事の皆様には記念事業推進にご尽力頂きました。改めて感謝申し上げます。

結びに公私共にご多忙のところ、ご臨席下さいましたご来賓、並びに関係各位に心から感謝申し上げます。今後とも、本校教育の発展のためご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げると共に、前原高校が 70 周年を契機に益々発展するよう祈念を申し上げご挨拶と致します。



## 歴史と伝統の継承

生徒会長 知念 優衣

私たちが毎日通うこの前原高校が創立して70年。今では当たり前のようにある前原高校が、戦後間もなく、何もない状態からスタートしたのだということを考えると、この学校の生徒でいられることを心から誇りに思います。

今、前原高校には3つのコースがあります。1組・総合スポーツコースは卓球・空手道・バスケットボール・剣道・サッカー・野球・陸上・バレーを重点種目として、自らの力と技を磨いています。2組・英語コースは語学力の向上に努め、国際社会で活躍することを意識しています。3組～8組は文理コースで、文武両道を目指し、勉学にも部活動にも力を入れています。各コースに特色があり、そのすべてが学校の活性化につながっていると思います。

近年の前原高校は、部活動の活躍がめざましく、サッカーチームは新人大会、総体、選手権で優勝をおさめ、陸上部男子800mでは大会新記録を打ち出しての優勝、空手道部は総体総合優勝をおさめるだけでなく、個人組手で全国3位になるなど、素晴らしい成績を残しています。その勢いはとどまることなく、最近行われた新人大会においても、空手道部、体操部、そして卓球部と、優勝旗を持ち帰ってくれました。授業や行事にも積極的に臨み、挨拶や清掃等、当たり前のことを当たり前にできる高校生を目指して日々を送っています。

行事も毎年大成功をおさめています。昨年度の体育祭では、男子による力強い空手の演舞、女子による息の合った肝高の阿麻和利のダンス、そして総合スポーツコースの目玉である集団行動を行いました。夏休み前から練習に練習を重ね磨き上げた、全校生徒の心が一つになりました。

今年度の学園祭では、展示の部・舞台の部・バザー、どれも盛り上がりを見せました。創意工夫をこらしたビデオ上映やおばけ屋敷。美味しい沖縄そばやホットドッグ。一致団結して完成させた創作劇やかっしん太鼓、影絵、ウォーターボーズ。友へ、先生方へ、家族へ、そして70年の歴史あるこの前原高校へ、感謝の思いを形にする学園祭となりました。

そして今年は創立70周年記念事業の一環として、「折鶴アートデザインプロジェクト」に取り組みました。全校生徒ひとりひとりが70年間で卒業した2万3千人あまりの先輩方への感謝の気持ちを込めて、また戦後70年に際しての平和への願いを込め、2万3千羽の鶴を折り、一つの作品になりました。この取り組みを通して、70周年への思いが深まりました。

創立70周年という節目を迎えるこれまで前原高校で学び、歴史と伝統を築き上げてきたたくさんの方があつたからこそ、今があるのだということを改めて実感しています。だからこそ、前原高校がさらに発展するよう、全校生徒一丸となって一層の努力をしていきますので、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



## 母校はこの世に一つ ～ホームカミングデーの継続を～

同窓会会長 大城 順子

沖縄県立前原高等学校創立 70 周年、誠におめでとうございます。

本校は、去る大戦の後、収容所であった「前原市」で、旧具志川村高江洲初等学校の校舎を借りて、昭和 20 年 11 月 12 日に設立開校し、授業を開始しています。生徒は戦火を生き延びた旧師範学校や中学校、女学校、実業学校等の男生徒 90 名、女生徒 60 名でした。小学校の隣の空き地に天幕（テント）で教室などが建てられていきましたが、翌年 3 月には、旧与那城村西原の米軍工兵隊跡地に移転しました。米軍は教室になるコンセットや農場まで払い下げて便宜を図っています。当時の生徒のほとんどが寮生活で、食料は自分たちで生産したりしながら勉学に励んでいます。その後社会も学校も発展し、昭和 33 年 6 月旧具志川村の誘致により米軍の物資集積所だった現在地に移転、現在に至っています。20 周年には図書館が建設され、現在の校歌ができました。30 周年頃には体育館を建立。40 周年頃には敷地を拡張し運動場が整備されました。50 周年頃には教育課程を大きく変更して時代のニーズに合わせています。60 周年頃には制服が替わりました。このように、70 年の間には、その時代の移り変わりや世相のうねりに翻弄されつつも、いろいろな変化がありました。学校の母体であった地域が分割されて、与勝高校や具志川高校が設置されたことも大きな変化の一つでした。

こうした 70 年の歴史を経て、本校は実に 23,000 名余の卒業生を世に送り出しています。戦後の沖縄の復興に尽くした方々をはじめ、現在もなおさまざまな分野において県内外各地で活躍されている、多くの人材を輩出していました。同窓としてたいへん嬉しく頬もしく誇りに思います。そしてまた、多くの同窓生が母校を偲ぶ 1 年に 1 度の大同窓会、「ホームカミングデー」が催されていることも嬉しく誇らしいことです。私たちの母校はこの世に一つ、前原高校のみ。今後とも、われわれ同窓も、母校や後輩・師弟のために、地域の中で地域と共に歩み発展する学校づくりに参加し見守っていきたいと思います。

現在、後輩である生徒たちは、スポーツ面において県内でも有数の成績を誇っています。学業面でもかなりの実績を重ねつつあります。これからも「教学一如」の精神でさらなる向上を目指して発展していかれることを、切にご期待申し上げてご挨拶といたします。



# 祝　　辞

沖縄県教育委員会

教育長 諸見里 明

県立前原高等学校が創立 70 周年の佳節を迎え、記念式典が開催されるに当たり、心からお祝い申し上げます。

本校は、沖縄戦終結の影響がまだ残る昭和 20 年 11 月 12 日、地域の皆様の切実な思いと教育に対する大きな期待を担い、旧制中等学校及び高等女学校の生存者 150 名の生徒を迎えて開校いたしました。

爾来 70 年、前原高校は「進取・誠実・奉仕」の校訓のもと、職員及び同窓生、保護者、地域の方々の思いを受けて歴史を刻み、今日までに 2 万 3 千名を数える卒業生が巣立っており、県内はもとより、県外や海外においても御活躍されていることは、大変喜ばしく、うれしく思います。これまで本校発展のために御尽力くださいました歴代校長をはじめ職員、同窓生、保護者並びに地域の皆様に対し、改めて心から敬意と感謝を申し上げます。

周知のとおり、本校は文武両道の名門校として、スポーツ面では、これまで野球部の 3 度にわたる甲子園出場をはじめ、全国高等学校サッカー選手権大会への出場、県高校総合体育大会空手道競技男子団体組手の 4 年連続優勝、陸上競技 800M や卓球競技、バスケットボール競技の上位入賞など、めざましい活躍が見られます。また文化面においては、全国高校放送コンテスト県大会や県高等学校音楽コンテストでの活躍もさることながら、平成 23 年度の「全沖縄児童生徒書き初め展」、平成 24 年度の「全国高校生料理コンクール」、そして平成 26 年度の「おきなわの観光絵画コンクール」にてそれぞれ学校特別賞を受賞しています。そこには戦後、何もないところから立ち上がり、生徒、職員、保護者そして地域の方々が何事にも全員で取り組んできた伝統校としての力強さをみることができます。

平成 18 年度には教育課程とコース制を改編するとともに制服も新しくなり、本校の校歌にも歌われているように、「肝高の意気たからかに」の如くますます文武両道に邁進しており、その成果は進路決定率の着実な伸びと、本校生徒のめざましい活躍からもうかがわれます。

在校生の皆さんも、この佳き機会に 70 年の歴史を顧みるとともに、自らが新しい歴史の主役であるという自覚と気概を持って、充実した学校生活を送っていただきたいと思います。

結びに、県立前原高等学校創立 70 周年に際し、御尽力を賜りました記念事業推進委員会並びに関係各位に対し心から感謝を申し上げ、本校の限りない発展と生徒の皆さんのが輝かしい未来を祈念しまして、お祝いのことばといたします。



## 祝　　辞

うるま市長  
島袋　俊夫

沖縄県立前原高等学校創立 70 周年記念を迎えるにあたり、お祝いの言葉を申し上げます。

本校は、第二次世界大戦終結直後の昭和 20 年 11 月に、高江洲初等学校内において開校し、2 度の移転を経て以来、移り変わる時代の変化のなか、着実に学校の歴史と伝統を築いてまいりました。

歴代の校長先生をはじめ、諸先生方や PTA など、学校関係者の教育に対する情熱と、更には、旧具志川市、旧勝連町、旧与那城町の地域の皆様のご協力によって、教育環境の整備充実が図られるとともに、輝かしい歴史と伝統が築かれ、今日のような素晴らしい学校に発展されましたことは、誠に喜ばしい限りでございます。

また、歴史的英雄「阿麻和利」を讃えた、誇り高き「肝高」精神を基本理念とし、創立から今日まで 2 万 3 千人余の卒業生を送り出し、同窓生が県内外の各界でご活躍されておりることは、ご承知のとおりであります。学校創立以来、学校経営と高等教育の充実、発展並びに人材育成にご尽力されました教職員の皆様をはじめ、保護者や関係者の皆様のご支援に、深く敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

この度、関係者の皆様が結束し、県立前原高等学校創立 70 周年記念事業推進委員会を立ち上げ、記念事業を展開されておりることは、誠に意義深く、比嘉勝会長をはじめ、皆様の活動は前原高等学校のこれから発展に大きく寄与するものであり、重ねて敬意を表する次第であります。

結びに、沖縄県立前原高等学校の益々の発展と、関係各位の皆様のご健勝ご活躍を祈念申し上げ、祝辞と致します。